

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501803		
法人名	三井ヘルスサービス(株)		
事業所名	グループホーム あかり		
所在地	札幌市白石区栄通16丁目6-16		
自己評価作成日	H24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=0170501803-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0170501803-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・常に利用者の立場に立って考え行動し、毎日笑顔のある生活及びびいごちの良い生活をしていただくために、家庭的な雰囲気を保ち、相手を敬う気持ちを持って接するようしております。
- ・地域の方々とも仲良くさせて頂き、散歩の際も声をかけて下さったり、野菜などを持って来て下さいます。
- ・ホームからも収穫した野菜をくぼったりしています。
- ・町内会長さんは、時々遊びに来たと行って入居者様とお話などされ帰られたり、毎年、収穫した葉物や大根などを持って来て下さいます。
- ・年1回のあかり祭りには地域の方々も多数参加して下さいます。
- ・他者の方が見学に来られた際は、かならず皆さん穏やかですね、と言われます。
- ・職員の資格取得や研修会には、職員自から積極的に参加していて、研修費用は全額会社が負担して勤務扱いとして頂いています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 24 年 11 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問者の感想や家族のアンケートの中に色濃く表現されている「利用者の暮らしの穏やかさ」は、今回の外部評価でも強い印象となって残りました。100歳を迎えた元気な利用者、顔の艶やかな平均92歳の利用者などマイペースの暮らしを継続しています。食事が残すことなく全て食べられて、下膳や食器洗いに協力しています。厨房で職員と肩を並べての作業は家族と共に暮らし家庭を彷彿させます。これらの自然体の中で行われており「穏やかさ」が醸成されているものと思慮します。管理者及び職員は、利用者のあるがままを受け止めながら、本人本位の支援を行っています。こうした支援の体制が定着しており、培われた経験に裏打されたスキルの高さを感じます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を職員と共に共有し、意識確認を行い、実践に生かしている。	利用者と地域とのつながりの大切さを謳った運営理念は職員間でよく浸透しており、日ごろのサービスに生かされています。今後、家族などへも理念を知っていただく方策が検討されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流が持てる様行事などに参加し、地域と一体となってサービスに取り組んでいる。又、参加することで地域の方に認知症の方の生活等を理解して頂いている。	町内会長の大きな理解のもと、諸行事に参加しながら地域住民とのおつきあいが重ねられています。認知症に関わる理解と予防にも地域と一体となった運動として広がりを見ることが出来ます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にホームの生活を理解していただけるよう、1年に1回は講演などを行なうよう心がけている。今年度は5月に介護予防運動の講話と実技をまじえて包括支援センターの方と講演予定している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、取り組んで来たサービス、現状等を報告し、その中で出た意見をその後のサービス向上に反映している。又、町内行事にもかならず参加させていただいている。	運営推進会議は2ヵ月毎の開催により、諸事業の報告に止まらず、ホーム内の様子をじかに見ていただき出席者からの意見や感想を引き出しています。しかしながら、家族の出席や魅力ある内容では課題が残ります。	家族の理解を得て、より多くの方の出席によりホーム運営に参画されるよう方策が望まれます。また、「あかり通信」での会議案内や家族全員に会議の議事録送付することが望まれます。会議ではテーマを決めた内容を加えるなど家族に親しまれる検討と実践が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の研修に参加し、ホーム長は認知症コールセンター相談員を行なっている。	市が開催する研修会には、職員の配置シフトを換えながらより多くの職員が参加できるよう努めています。また、市が行う「認知症コールセンター」の相談員として、前管理者の職員を派遣するなど市との連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し、理解はしているが実際にホーム内において危険行為のある方が2名おり、家族の同意を得て、夜間のみベッド柵を使用し、事故防止を行なっている。	身体拘束をしないケア及び虐待防止の重要性を職員は研修会や勉強会で習得し実践していますが、利用者の夜間の立ち上がりによるベッドからの転倒などの危険防止のため、家族の同意を得て夜間のみベッド柵の使用が見られます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	社内外の研修、勉強会を通し、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修や勉強会等に発表の機会を持ち理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、退去などの説明を丁寧に行い、理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム連絡先、外部関係機関への連絡先をホーム内に掲示し、連絡しやすい環境づくりを行っている。又、日々家族の方々や外部の方にも意見に耳を傾けるよう心かけている。	家族等が比較的近隣に住まわれているため、訪問頻度は高い傾向にあり、訪問時の家族との懇談が意見や要望の収集に役立っています。また、新年会を兼ねるなど年に数回開催される家族交流会は忌憚のない会話が飛び交うなどホームの運営に大いに役立っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	数回実施している勉強会やミーティングや毎日行っているカンファレンスの中で、職員の意見や提案を管理者は聞き入れ、その都度話し合いを設け、より良い職場の環境作りに反映している。	月毎に開催されるミーティングや勉強会には、度々代表者も出席して現場での生の声に耳を傾けるなど風通しの良さが伺えます。代表者、管理者、職員が一体となった方向性の確認が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月に数回ホームに来所され、職員に対して意見を聞き、常にホーム内の状況を把握されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促しており、多数が参加しており、又、介護福祉士や介護支援専門員等の資格試験にも積極的に促している。研修で得た知識、技術を現場で実践出来る様働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームホーム連絡網を作成し、意見交換や相互訪問等を行い、互いの取り組みなど比較し、改善点があればケアに取り入れるよう努め、互いにサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前調査で、利用者の生活歴や趣味、願い等をあらかじめ理解し、本人がいかに楽しく穏やかに過ごせるか職員間で話し合い、本人の意見に耳を傾け、不安のない、安心した生活を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族とは連絡を取り合い、困っているいる事や要望に対してはその都度対応し、解決できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の方々や医療機関との連携も含め対応に努めている。近隣の病院と連携し、24時間対応して頂ける仕組みを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長と考え、料理や畑仕事、ご本人の得意なことを通じて、喜怒哀楽を共有し、利用者から学んだりし、支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月あかり通信を作成し、行事や日常生活の報告を行っている。家族交流会を通じて情報交換し、一緒にご本人を支えていく関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの物を使用して頂くよう努めている。又、家族との連携を図り、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、帰宅をしたり、親戚、友人に会う機会を作っている。	家族は勿論、知人などが訪問の際には大歓迎をして、馴染みの関係継続が途切れないよう支援しています。また、利用者の居室前には廊下壁に埋め込みの「メモリアルボックス」が設えられ、本人にとっての思い出の品々や写真が飾られているなど、ふと思い出す機会への配慮がされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努めており、職員も一緒に関わりながら楽しめる関係作りに努めている。本人や家族からの情報収集、職員が感じたことなどを記録にとり、職員間での情報の共有を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にいつでも相談に応じることや遊びに来て下さいとお話している。実際に収穫されたお野菜やお花などを持参して下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに沿った暮らしができるように情報収集に努め、本人の気持ちを汲みとり、近づける様に努めている。	アセスメントや日々のモニタリングで得られた利用者の情報をしっかりと見据えながら、あくまでも本人本位の暮らしの継続に対するお手伝いをするというポリシーが守られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報などにより、生活の場からその方の特徴を見極め、その方にあった生活環境が保てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を取りながら利用者一人ひとりの生活リズムや声に耳を傾け、その方にあった対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとってどのようなケアがベストなのか課題を検討し、状況に変化があった場合は、かならずアセスメントを行い、カンファレンスを行い、解決に努めている。	前回の評価で得られた取り組み課題であるケアプランに沿った暮らしの記録は、常にケアプランやアセスメントとの要約表が見やすく改良され、日々の記録にしっかりと反映されています。また利用者の異常を素早く捉えて、カンファレンスで解決に向けた検討が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り等により、情報を共有し、月に一度カンファレンスを行い、実践や計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスと協力しあい、一緒に行事などを行っており、利用者、家族の方々も参加して楽しんで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の火災訓練の際、地域の方々にも参加して下さっている。又、年1回地域の小学校PTAの方々より、タオルの贈呈を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内に看護師もおり、デイサービスの看護職員と連携を取り、健康管理を行い、情報交換を行っている。	従来のかかりつけ医は遠方などの事情を解消するため、家族との協議のもとにホームの協力医療機関への移行が見られ、かかりつけ医となって健康管理や適切な医療を受けられるよう支援が行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師やデイサービスの看護師及び職員と協働で健康管理を行い、医師との連携を蜜に行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や入退院後の相談に努め連携もとれている。できるだけ離床を心がけている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で話し合いを設け、医師や家族方と話し合い、連携を蜜に行っている。	利用当初に交わされている重度化などに向けた方針への同意書や終末期を迎えた際の度重なる医師の対応等について、家族を交えた協議など細やかな対応がみられます。家族の希望に添った2件の看取り事例も体験しており、職員はこの情報を共有し一体となった支援が行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内において、事故発生時の訓練や急変時の対応などにおいては勉強会や訓練などを行い、マニュアルなども作成している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携を行っており、年2回の訓練を全職員及び地域の方々にも参加して頂き行っている。	年に2回の避難訓練が行われており消防署の協力を得て実施されている他、地域の住民の協力得での避難訓練が実施されています。また、火災に限らず地震、放火への対応マニュアルが整備されています。更に水、食糧、電池などの備蓄も備えられています。	地域の方々の協力は次第に厚みのあるものとなっていますが、避難時などの臨場に際してのそれぞれの役割などポジションが明記されたマニュアルを作成して、地域等への協力要請が望ましく対応を期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシー保護に努めている。又、個人情報管理の徹底を行っている。	ホーム内に満ちている穏やかさは、職員が利用者の人格の尊重やプライバシーへの対応を十分に行き届かせている証であると思料します。特に穏やかな職員の言動はスキルとして定着しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を理解し、なるべく希望や自己決定を表しやすい環境作りに努め、自己解決できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活する中で利用者本意に事を運び、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせた支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と相談し、希望に沿った洋服選びをして頂き、理容師によるヘアカットや毛染めも行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合わせた食事、調理、片付けをスタッフと共に行い、コミュニケーションを図りつつ、楽しみながらできるよう支援している。	高齢かつ介護度が高くなっているにも関わらず、全ての利用者が個々のペースで食事を楽しんでいます。各々が食後のお茶や下膳を行っています。また、食器洗い、食器拭きなど職員と共に肩を並べて行うなど暮らしに溶け込んだ様子が見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を確保できるよう工夫しながら飲用して頂き、個人の食事管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、本人のいき届かない部分には介助を行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、排泄リズムを把握し、自立排泄困難な利用者には時間帯で排出誘導を行っている。	トイレでの自立した排泄は身体機能の低下などにより次第に困難となっている方もいますが、職員は排泄パターン把握により適切な誘導でトイレでの自力排泄を支援しています。夜間のポータブルトイレの使用、事後の清掃など職員の細やかな心配りを見ることができます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の食材や飲み物を提供し、その方に合わせた運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めているが要望に応じて随時入浴可能に努めている。	週に2回の入浴によるリラクゼーションと健康への配慮の支援が行われています。利用者はほぼ全員が自分自身で入浴を楽しんでおり、職員は見守り支援をしながら安全に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムに合わせて休息をして頂いている。夜間2～3時間おきに巡回を行うことで安心、安全確認に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化には敏感に対応している。又、薬の内容においては、各自、薬シートをもとに副作用などについて勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った余暇や役割を個々に行い、楽しい生活を送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くのサイクリングロードに散歩に出かけ、約1～2回は外出行事を設け、出かけるように心がけている。	ホーム前のサイクリングロードは格好の散歩道でもあり、散策しながら四季の移り変わりの光景を楽しまれています。また、毎月1～2回の外出行事を設けてレストランでの食事会、紅葉を愛でるドライブなど利用者の楽しみを支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って好きな食品と一緒に買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合は電話をかけたり、お手紙を送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その場にあった照明の強度、TVやラジカセなどの音量の調整を行い、季節のお花や身体に合わせた椅子などを使用し、共用できるソファなどを用意し、利用されている。	食堂を兼ねたリビングでは、照明を落とし外からの採光による自然で家庭的な雰囲気を醸し出しています。厨房で職員と共に肩を並べて仕事に精を出す利用者の姿は印象的であり、心地の良さを感じます。温度、湿度の管理も細やかな配慮が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの関係ができ、個々にあったゲームや工作などを行う一方、共用空間の中でもその時の気分で一人で利用できる様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具、装飾品、写真を持ってきて頂き、居心地良く生活していただける様工夫している。又、ご自身で作られた作品なども掲示している。	利用者の個性が覗える居室には、それぞれ馴染みの家具や整理だんす、テレビなどが整然と並び、安心と安らぎの場所となっています。家族の写真、書道、塗り絵などが壁を彩っています。昼食後には昼の睡眠で居室での静かな時間が過ぎてゆきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーとなっており、居室入り口には本人の物とわかるような写真や飾り物などをメモリーボックス内にいれてある。		